

(様式第2号)

福祉サービス第三者評価結果報告書

1 評価機関

名 称	有限会社 アウルメディカルサービス
所 在 地	岡山県岡山市北区岩井2-2-18
評価実施期間	平成 26年 1月 15日(水) ~ 平成 26年 5月 15日(木)

2 事業者情報

【平成25年4月1日現在】

事業所名称: 旭川乳児院 (施設名)	サービス種別: 乳児院
管理者氏名: 平岡 文恵	開設年月日: 昭和 32年 7月 31日
設置主体: 社会福祉法人 旭川荘	代表者 職・氏名: 末光 茂
経営主体: 社会福祉法人 旭川荘	代表者 職・氏名: 末光 茂
定員: 43名	利用人数: 24名
所在地: 〒703-8555 岡山県岡山市北区祇園866番地	
連絡先電話番号: 086-275-4308	FAX 番号: 086-275-6641
ホームページアドレス: http://www.asahigawasou	E-mail: nyuujin1@asahigawasou.or.jp
サービス内容 (事業内容)	
【基本方針】 入所児童一人ひとりの人権を尊重し、心身および社会性の健全な発達を促進し、家庭に復帰できるように支援を行う。このため、個々の支援計画に基づき、援助を展開する。また、家族再統合に向け、児童相談所など関係機関との連携の上、家族アプローチを行う。地域の子育て支援に資するため、短期入所事業を行う。	
居室の概要	居室以外の施設設備の概要
4つのフロア(食堂、プレイルーム) 大舎制	中庭、観察室、診察室、病児室、調理室、浴室、調乳室、リネン室、日光浴室、詰所、面会室、洗濯室、作業室、保育指導室、栄養管理室、資料保管室、事務所、倉庫、はなもものお家

職員の配置			
職 種	人 数	職 種	人 数
施設長	1名	保育士	20名
事務員	2名	家庭支援専門相談員	2名
児童指導員	2名	心理療法担当職員	1名
看護職員	7名	栄養士	1名
医師(嘱託医)	1名	調理員等	10名

3 評価結果総評

◇特に評価の高い点

【感染症などに対するリスク管理】

利用者が抵抗力のない乳児ということもあり、外部からの菌の侵入について日頃から細心の注意を払っている。乳児が過ごす空間には検便などの検査を受けた人のみ入ることができる。ボランティアの方にも説明の上、検査を受けてもらうなど徹底している。汚染物の処理や体調不良時の管理などもルールを決め、徹底した対応を行っている。

【1人ひとりに合わせた食事の工夫】

離乳食は『おもゆ、だし汁』から始まり、『ごはん、幼児食、おやつ』まで12段階に区切られ、栄養士が1人ひとりのペースを見ながら変更している。オリジナルで12段階を作成しているが、これでもまだ発達や体格を個別にみると対応出来ていないと言われる。それだけ1人ひとりの成長を細やかに観察している証しである。また、2年前から子どもの見本となるように職員がテーブルと一緒に食べるモデル食に取り組んでいる。職員がお箸やスプーンを使うことで、子どもが興味を示すことが多いとのこと。秋のさんま、旬の野菜など季節を感じる料理や週2～3回の手作りおやつも子どもが楽しく食事が食べられるよう工夫されている。

【専門職の充実】

保育士、看護師、家庭支援専門相談員、心理職など専門職が多く、充実している。心理職は10年位前から配置していると伺った。話しを聞く中でそれぞれの専門職の方が自信とプライドを持って食生活や健康管理、家庭復帰支援、親子の心理ケア等に取り組んでいる姿とお互いを尊重し、相談し合える関係が築けていることを感じた。今後もこの絆を継続し、乳児の発達に活かして頂きたい。

【はなもものお家の存在】

乳児院から少し離れた場所に一戸建ての『はなもものお家』が日中活動の場として用意されている。施設という特殊な環境で過ごしている中、普通の家で過ごす感覚が鈍くなってくることもあり、職員と子どもの2人で普通の家で過ごすという感覚を知ってもらっている。特にお風呂に入るときは施設との違いに子どもが戸惑うことが多いとのこと。また、家庭引き取りになる前に一泊を基本に親子で過ごす練習の場にも活用している。その場合、家庭支援専門相談員が付き添うが、心理職も途中で訪問し、様子観察、助言等も行っている。最初から2人で過ごすことに不安を感じる家族もいると思うので、こうした取り組みにより少しずつ親子で過ごす感覚を取り戻していくことは必要だと感じる。

◇改善を求められる点

【プライバシー空間の確保】

廊下からガラス戸越しに保育室内や浴室がみえるため、カーテンやくもりガラスなどプライバシーへの配慮を工夫して頂きたい。廊下に入るまでに扉があり、関係者しか入室できない環境だが、やはり乳児期の経験は将来に何らかの影響を及ぼす可能性が大きいと思われる。特におしめ交換やおまる使用、病児保育、経過観察の必要な子どもの居室の環境などのデリケートな部分の改善が求められる。また、家庭的な雰囲気が少ないため、ほっとする空間を用意するなど、子どもにとって優しい環境を検討して頂くことを期待している。

【職員参加による中、長期計画の策定】

施設自体が築50年近く経過しており、いろいろな面で老朽化や非効率な面は否めない。現在、平成28年度に建て替えの予定があり、中、長期計画にも明記されている。建て替えにあたり、現場の職員の意見を聞く機会を設けて頂き、みんなで丸となってよりよい支援ができる施設づくりに前進して頂きたい。子どもが家庭的な環境で快適に生活できることを第一に考え、職員の動きやすさや働きやすさのエッセンスを加えて話し合っ頂きたいことを期待する。

【家族面会の柔軟性の強化】

感染症など様々なリスクを考え、家族の面会は予約が必須、面会室での面会が前提となっている。家族の気持ちを考えると、子どもが遊んでいる姿を遠くから見たり、仕事の帰りなどちょっとした時間に顔だけ見たりする時間も大切にして頂きたい。いずれ家庭に引き取るため、頑張っている家族の心の支えにもなるよう、それぞれの家族状況に合わせて柔軟な対応を検討して頂きたい。

【はなもものお家の活用】

日中活動用に一戸建ての『はなもものお家』が用意されているが、実際に使用している日数は少ないのが現状である。現状の施設では家庭的な雰囲気が少ない中、子どもが家庭的な環境で過ごすことができる『はなもものお家』は貴重な存在である。個別対応だけではなく、仲のいい顔ぶれで何気なく過ごす時間を作るなどいろいろな活用方法を検討して頂くことを期待する。

4 第三者評価結果に対する事業者のコメント

平成24年度は全職員で全領域の自己評価を行いました。普段は関係の少ない領域もチェックしたため、まとまりが付きにくいものとなりました。それでも、今の乳児院に求められているものは何かということ、全職員が知る好機となりました。

今年度は、外部評価を受審することとなり、自らが携わっている領域を責任者が自己評価するという方法で臨みました。前年度に比べ、領域ごとの自己評価のすり合わせが活発に行われ、その過程での気づきが大きかったと振り返ります。

外部評価の受審により、これまで困難とされてきた保護者アンケートを実施することができました。事前に各措置期間に了解を得られた保護者のみに郵送でお願いしましたが、5通の回答があったと分かり、うれしく思っています。アンケート結果は真摯に受け止め、少しでも改善に向けて努力したいと思います。

このたびの評価結果では、『a』評価をいただいた中でも、不十分だと感じている面があります。それについては、胸を張って「a」と言えるまで今後とも努力したいと思います。一方、改善しなければいけないと分かっていた事柄もあり、みんなで力を合わせて、より良くしていきたいと思います。評価を読みながら、すでに改善案が浮かんでいるものもあります。

職員アンケートでは、子どもや保護者のことを第一に考えていることがわかり、日ごろの姿とも一致するものでした。このような職員とともになら、様々な困難を乗り越え、より良い旭川乳児院となることを目指していけると誇りに思うところです。

5 評価結果(別紙)

(別紙)

第三者評価結果（乳児院）

1 養育・支援

(1) 養育・支援の基本	第三者評価結果
① 子どものこころによりそいながら、子どもとの愛着関係を育んでいる。	a・b・c
② 子どもの遊びや食、生活体験に配慮し、豊かな生活を保障している。	a・b・c
③ 子どもの発達を支援する環境を整えている。	a・b・c

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

1 部屋 6～8名の少人数のグループをなじみのある職員で支援している。以前は年齢毎に部屋を変えていたが、現在は同じ職員が継続して関わり、なじみの関係を構築するようにしている。1人ひとりに担当職員を決め、愛着関係を築けるようスキンシップやコミュニケーションを図っている。特に入所直後は周りの職員が自然に配慮し、おんぶなど担当職員とのスキンシップを増やしている。被虐待児に対してはF S Wや心理職と相談しながら時間をかけて距離が近くなるよう注意している。

部屋は広く、子ども達が創意工夫にて発達できるようなおもちゃを用意している。また外遊びを楽しむことが出来るように滑り台やブランコなど遊具も用意している。少しでも日に当たる時間を増やすよう、外で遊んだり、周辺を散歩したりする時間を作っている。

日々の食事の中で切り身だけでなく、一匹丸ごと魚を焼いて目の前でほぐしたり、畑で採れたトマトやサツマイモを提供したりすることで子どもに関心を持ってもらい、豊かな生活への支援をしている。

子ども達にいつも気にして見ていることが伝わるよう、たびたび声をかけることを心がけている。また、話を聞く、理由を伝える、お礼を言うなど子どもときちんと向き合うことで信頼関係を築き、心の成長を促している。

(2) 食生活	第三者評価結果
① 乳幼児に対して適切な授乳を行っている。	a・b・c
② 離乳食を進めるに際して十分な配慮を行っている。	a・b・c
③ 食事がおいしく楽しく食べられるよう工夫している。	a・b・c
④ 栄養管理に十分な注意を払っている。	a・b・c
(3) 衣生活	
① 気候や場面、発達に応じた清潔な衣類を用意し、適切な衣類管理を行っている。	a・b・c
(4) 睡眠環境等	
① 乳幼児が十分な睡眠をとれるように工夫している。	a・b・c
② 快適な睡眠環境を整えるように工夫している。	a・b・c
③ 快適な入浴・沐浴ができるようにしている。	a・b・c
(5) 発達段階に応じた支援	
① 乳幼児が排泄への意識を持てるように工夫している。	a・b・c
② 発達段階に応じて乳幼児が楽しく遊べるように工夫している。	a・b・c

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

1日のミルク量を個々の体重や身長をもとに栄養士が計算している。また、離乳食は12段階に区切られており、1人ひとりの成長に合わせて様子をみながら変更している。1段階毎に食材が増えるなど、それぞれの段階における目的とマニュアルも提示されている。『乳児院だより』に食事の写真を載せたり、面会時に同じものを一緒に食べてもらったりするなど、家族にも食事について説明し、必要時には指導も行っている。

食事に興味を持ち、楽しく食べられるよう、大皿料理やお弁当、月見団子やおはぎ等季節のおやつなど工夫している。また、各部屋の給食委員会の職員がれんげ等でする訓練やお箸を使う訓練など計画を作成し、栄養士と連携している。

衣類は体に合わせて準備し、大きくなれば自分で服を選ぶ子もいる。タオルや肌シャツ、靴下は清潔に配慮し、共有している。髪型は家族の希望を優先し、散髪する前に必ず確認をしている。

睡眠時は暑すぎず、寒すぎずの温度調整に配慮し、起きた時に側にいるよう、付き添っている。家族がぬいぐるみなど持ってくる場合もあり、抱いて寝ていることもある。

入浴時間はしっかりと関わることができるよう、必ず1対1で支援している。沐浴室の設備が古く、子どもが立位で入浴する独特の様式となっている。『はなもものお家』で家庭浴槽を体験する機会はあるものの、回数は少ない。また、廊下からの視線がさえぎられるものが無く、プライバシーへの配慮が欠けている面が否めない。建物の建て替えにより、職員も一緒に入浴できるような安心感のある浴室になることを期待している。

排泄について発達段階に応じてトレーニングパンツの使用や順番を守ってトイレに行く事など指導している。汚物は廊下のバケツに入れ、手袋装着し処理している。睡眠時はしっかりと眠れるよう、紙オシメも活用している。

(6) 健康と安全	第三者評価結果
① 一人一人の乳幼児の健康を管理し、異常がある場合には適切に対応している。	a・b・c
② 病・虚弱児等の健康管理について、日常生活上で適切な対応策をとっている。	a・b・c
③ 感染症などへの予防策を講じている。	a・b・c

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

規則正しい生活、食事管理を基本に外から帰ったらうがい、手洗いをする、入浴時の身体チェック、元気かどうか等、日常生活の何気ないことから健康管理をしている。小児科の定期受診があり、変化があれば診察を受け、早期発見、早期治療に努めている。

感染症対策として外部からの菌の侵入を防ぐため、職員はもちろん、ボランティアまで検便を義務付けるなど感染症の媒体とならないように徹底している。また、室温湿度調整や床暖房、空気清浄機の活用、おもちゃの消毒、鼻水がでていれば職員同士声をかけ合う等お互いに協力し合い、感染症予防に努めることで成果が出てきている。

今年度よりインフルエンザ等予防接種に加え、看護師の提案によりロタウイルス予防接種も施設負担で開始している。

乳幼児突然死症候群への対応として SpO2測定を行い、情報収集している。また、医師の指示により新生児は必要期間24時間モニター測定を行っている。

(7) 心理的ケア	第三者評価結果
① 乳幼児と保護者に必要な心理的支援を行っている。	a・b・c

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

10年位前より心理職を配置しており、心理ケアの充実を図っている。

心理職は100%子どもの味方となり、子どもや家族、職員と関わっている。今は子供に1対1で心理療法を実施するよりも、保育士が行う日々の支援や家族が与える影響の大きさを考え、家族に対して子どもの為に変わってほしい事や気づいて欲しい事を伝えたり、保育士の悩みに対して一緒に考え、色々な方法を提示したりすることに重きを置いている。母親に精神疾患がある場合、医療機関と連携し、保護者の支援計画を作成したこともある。発達検査は1歳、1歳6ヶ月の2回実施し、担当職員にも立ち合ってもらい、日頃の様子などを含めて出来る事、できない事を確認している。発達障がいの可能性がある場合、その特性を保育士に伝え、意識した支援をお願いしている。

(8) 継続性とアフターケア	第三者評価結果
① 措置変更又は受入れを行うに当たり、継続性に配慮した対応を行っている。	a (b) c
② 家庭引き取りに当たって、子どもが家庭で安定した生活を送ることができるよう家庭復帰の支援を行っている。	(a) b · c
③ 子どもが安定した生活を送ることができるよう退所後の支援を行っている。	(a) b · c
(特に評価が高い点、改善が求められる点)	
<p>子どもの年齢に伴い、他施設へ措置変更となる場合が多い。移行予定の施設から担当者に訪問してもらい、普段の生活をみてもらったり、担当職員から細かな様子を伝えたりしている。準備期間をできるだけ長くしていきたいが、児童相談所からの決定が短期間で行われる場合もあり、十分な引継ぎが難しい場合がある。</p> <p>子ども達が家庭生活に復帰する場合、保護者からの悩みや相談、質問等があれば随時対応し、家庭での生活を順調に送ることが出来るようにしている。</p> <p>保育園など関係機関や地域での支援体制を活用し、乳児院家庭復帰アフターケアシステム会議を開催している場合もある。</p>	

2 家族への支援

(1) 家族とのつながり	第三者評価結果
① 児童相談所と連携し、子どもと家族との関係調整を図ったり、家族からの相談に応じる体制づくりを行っている。	(a) b · c
② 子どもと家族の関係づくりのために、面会、外出、一時帰宅などを積極的に行っている。	a (b) · c
(2) 家族に対する支援	
① 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	(a) · b · c
(特に評価が高い点、改善が求められる点)	
<p>受け入れや入所中の面会、外泊などの調整、退所に向けての調整などFSWが中心となり行っている。経過は随時パソコンに記録し、パスワード入力にて職員が閲覧できるようになっている。また、児童相談所の方針に沿って家族支援計画を4ヶ月毎に作成している。</p> <p>面会は予約制で面会室でのみ行っている。FSWは様子を伺い、見守り役や仲介役など担っている。また、子どもとの遊びを教えたり、自分の作ったミルクを飲んでもらったり、食事やアレルギー対応の調理を教えたりするなど育児指導も専門職が行っている。面会についてのルール設定が施設側の視点に傾いているのではないかと感じた。少しでも会いたいという家族の気持ちを大切に再度検討を期待している。</p> <p>家庭引き取りの前には職員見守りのもと、『はなもものお家』にて親子2人で食事や遊び、入浴などを含めた一泊という長時間の体験を行っている。職員が近くにいることで何かあればすぐに相談できる安心感もあり、ゆったりと2人で過ごすことができる。他の施設に</p>	

はない『はなもものお家』という資源を有効に活用して頂くよう検討を期待する。
 年4回『乳児院だより』を発売し、行事予定や時事の事柄を記載している。また、1人ひとりの子どもの写真を大きく載せ、担当職員がコメントを書き入れている。子どもの成長が分かり、保護者にとってうれしいたよりだと思われる。

3 自立支援計画、記録

(1) アセスメントの実施と自立支援計画の策定	第三者評価結果
① 子どもの心身の状況や、生活状況を把握するため、手順を定めてアセスメントを行い、子どもの個々の課題を具体的に明示している。	a・ b ・c
② アセスメントに基づいて子ども一人一人の自立支援計画を策定するための体制を確立し、実際に機能させている。	a・ b ・c
③ 自立支援計画について、定期的実施状況の振り返りや評価と計画の見直しを行う手順を施設として定め、実施している。	a ・b・c
(2) 子どもの養育・支援に関する適切な記録	
① 子ども一人一人の養育・支援の実施状況を適切に記録している。	a・ b ・c
② 子どもや保護者等に関する記録の管理について、規程を定めるなど管理体制を確立し、適切に管理を行っている。	a ・b・c
③ 子どもや保護者等の状況等に関する情報を職員が共有するための具体的な取組を行っている。	a ・b・c
(特に評価が高い点、改善が求められる点)	
<p>担当職員が中心となり、毎月計画作成している。アセスメントとして現在の様子を項目ごとに文章で記載しているが、書き方の統一が困難である。有効なアセスメント様式について検討中である。ケース会議や部屋会議にて支援計画や担当者が困っている事など話し合いを行い、連絡ノートで情報共有を図っている。悪い事よりもいい事やできる事に注目し、次のステップに進めるような目標設定を心がけている。</p> <p>保育記録、看護記録、個別観察記録など各種記録を状況に応じて記録している。睡眠など子ども1人ひとりの課題がある場合は経過を記録し、検討に繋げている。パソコンにFSWが保護者とのやり取りを記録し、パスワード入力により職員はいつでも見る事ができ、情報共有を図っている。個人ファイルは鍵付ロッカーで管理している。</p>	

4 権利擁護

(1) 子どもの尊重と最善の利益の考慮	第三者評価結果
① 子どもを尊重した養育・支援についての基本姿勢を明示し、施設内で共通の理解を持つための取組を行っている。	a ・b・c
② 社会的養護が子どもの最善の利益を目指して行われることを職員が共通して理解し、日々の養育・支援において実践している。	a ・b・c
③ 子どものプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備し、職員に周知するための取組を行っている。	a・ b ・c
(2) 保護者の意向への配慮	
① 保護者の意向を把握する具体的な仕組みを整備し、その結果を踏まえて、養育・支援の内容の改善に向けた取組を行っている。	a・ b ・c
(特に評価が高い点、改善が求められる点)	

基本姿勢は運営規定に明記している。年度始めには倫理綱領の読み合わせをしたり、呼び方や言葉遣いなど会議で話し合ったりするなど職員への意識づけを図っている。

プライバシー保護について法人規定はあるが、現場の職員はあまり知らない。写真の撮影は家族の同意を得てから行っている。子ども達が生活する場として部屋やお風呂、トイレなどプライバシーの保護に欠ける面が否めない。カーテンや曇りガラス、パーテーションなどの活用を検討して頂きたい。

保護者の1人ひとりの状況に合わせ、意向や希望を把握するように努めている。場合によっては児童相談所を介して行う場合もある。

(3) 入所時の説明等	第三者評価結果
① 保護者等に対して、養育・支援の内容を正しく理解できるような工夫を行い、情報の提供を行っている。	a・ b ・c
② 入所時に、施設で定めた様式に基づき養育・支援の内容や施設での約束ごとについて保護者等にわかりやすく説明している。	a・ b ・c
(4) 保護者が意見や苦情を述べやすい環境	
① 保護者が相談したり意見を述べたい時に相談方法や相談相手を選択できる環境を整備し、子どもに伝えるための取組を行っている。	a ・b・c
② 苦情解決の仕組みを確立し、保護者等に周知する取組を行うとともに、苦情解決の仕組みを機能させている。	a ・b・c
② 保護者等からの意見等に対して迅速に対応している。	a・ b ・c
(5) 被措置児童等虐待対応	
① いかなる場合においても体罰や子ども的人格を辱めるような行為を行わないよう徹底している。	a ・c
② 子どもに対する暴力、言葉による脅かし等の不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	a ・b・c
③ 被措置児童等虐待の届出・通告に対する対応を整備し、迅速かつ誠実に対応している。	a ・b・c
(特に評価が高い点、改善が求められる点)	
<p>「乳児院のご利用にあたって」という書面を利用し、F S W、看護師、主任が立ち合い、入所時の説明を行っている。また、今までの生活や健康状態、希望など聞き取りをし、入所時チェックリストに記入している。精神疾患や軽度知的障がいを持つ保護者も多いため、入所時の説明としてイラストなど工夫し、分かりやすい書面も用意してはどうだろうか。</p> <p>玄関を入ると相談方法についての掲示があり、いつでも相談できることを伝えている。意見や苦情への対応についてマニュアルがあり、F S Wや心理職、課長が主として対応している。精神疾患を持った家族もあり、会話や言葉かけには注意が必要である。</p> <p>被措置児童等虐待対応についてガイドラインの配布や内部研修の実施により職員へ周知徹底を図っている。</p>	

5 事故防止と安全対策

	第三者評価結果
① 事故、感染症の発生時など緊急時の子どもの安全確保のために、組織として体制を整備し、機能させている。	a ・b・c
③ 災害時に対する子どもの安全確保のための取組を行っている。	a ・b・c
③ 子どもの安全を脅かす事例を組織として収集し、要因分析と対応策を行い、子どもの安全確保のためにリスクを把握し対策を実施している。	a ・b・c

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

感染症の対策委員会を設け、マニュアルを作成している。何かあればすぐに嘱託医に指示を仰ぎ、適切に対応している。

月1回の避難訓練に加えて年2回法人で合同訓練を実施している。通常は夜間想定を主としており、職員3人で子どもを外に避難誘導するまでの訓練をしている。近くに一級河川があるため、地域全体で水害対策の訓練も行っている。建物の耐震設備はないが、今年度ガラスをアクリルに変更するなど対策を図っている。

事故、ヒヤリハットについては安全対策委員会を中心に分析など力をいれている。法人全体の会議で発表し、いろいろな事業所から職員が集まり、様々な視点から原因を検証し、事故の発生を予防している。

不審者侵入を防ぐため、玄関のオートロックやモニター設置、夜間見回りのガードマン配置など対策を図っている。

6 関係機関連携・地域支援

(1) 関係機関等の連携	第三者評価結果
① 施設の役割や機能を達成するために必要となる社会資源を明確にし、児童相談所など関係機関・団体の機能や連絡方法を体系的に明示し、その情報を職員間で共有している。	a・b・c
② 児童相談所等の関係機関等との連携を適切に行い、定期的な連携の機会を確保し、具体的な取組や事例検討を行っている。	a・b・c
(2) 地域との交流	
① 子どもと地域との交流を大切にし、交流を広げるための地域への働きかけを行っている。	a・b・c
② 施設が有する機能を地域に開放・提供する取組を積極的に行っている。	a・b・c
③ ボランティア受入れに対する基本姿勢を明確にし、受入れについての体制を整備している。	a・b・c
(3) 地域支援	
① 地域の具体的な福祉ニーズを把握するための取組を積極的に行っている。	a・b・c
② 地域の福祉ニーズに基づき、施設の機能を活かして地域の子育てを支援する事業や活動を行っている。	a・b・c

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

定期的に児童相談所と会議を行い、情報を共有している。会議で話し合ったことは子どもの担当職員に伝え、記録をファイルに綴じている。

地域の方にも第三者委員になって頂き、情報を伝え、意見交換をしている。近くにいっても旭川乳児院がどういうところか分からなかったが、見学や意見交換をすることで分かり始めたと言われ、地域住民の理解が深まっている。また、地域の公民館や銀行にて写真展を開催し、乳児院を知ってもらう機会を作っている。

ボランティアの希望が多く、行事などに参加してくれている。希望があれば検便などの条件を了承して頂き、登録している。特別養護老人ホームや地元の小、中学生との交流は感染症予防の為、一旦中止となっている。早期の再開を期待している。

隣接する児童館にて乳幼児の親子教室や放課後児童クラブ、子育て教室など地域に向けた取り組みを行っている。長期計画の中で児童家庭支援センター部門の設立を予定している。

7 職員の資質向上

	第三者評価結果
① 組織として職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	a・b・c
② 職員一人一人について、基本姿勢に沿った教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取組が行われている。	a・b・c
③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行い、次の研修計画に反映させている。	a・b・c
④ スーパービジョンの体制を確立し、施設全体として職員一人一人の援助技術の向上に努めている。	a・b・c
(特に評価が高い点、改善が求められる点)	
<p>経験年数、前年度の受講内容、本人の希望など考慮し、研修計画を作成し、外部研修への参加を促している。また、施設内研修についても研修委員会にて計画を作成し、手洗い、救急法、伝達研修などスキルアップを図っている。</p> <p>日常業務の中で、基幹的職員や先輩職員が指導したり、相談にのったりするなどスーパービジョン体制を構築し、職員の技術向上を図っている。また、月1回精神科医の訪問があり、FSWや心理職のスーパーバイザーとなっている。</p>	

8 施設の運営

(1) 運営理念、基本方針の確立と周知	第三者評価結果
① 法人や施設の運営理念を明文化し、法人と施設の使命や役割が反映されている。	a・b・c
② 法人や施設の運営理念に基づき、適切な内容の基本方針が明文化されている。	a・b・c
③ 運営理念や基本方針を職員に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	a・b・c
④ 運営理念や基本方針を保護者等に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	a・b・c
(2) 中・長期的なビジョンと計画の策定	
① 施設の運営理念や基本方針の実現に向けた施設の中・長期計画が策定されている。	a・b・c
② 各年度の事業計画は、中・長期計画の内容を反映して策定されている。	a・b・c
③ 事業計画を、職員等の参画のもとで策定されるとともに、実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われている。	a・b・c
④ 事業計画を職員に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	a・b・c
⑤ 事業計画を保護者等に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	a・b・c
(特に評価が高い点、改善が求められる点)	
<p>法人の理念はホームページに明記されている。基本方針は事業計画に明記され、年2回程度会議の場で職員に伝えている。事業計画はそれぞれの分野の職員から今後の目標について聞き取り、優先度の高いものから選択し、作成している。毎年4月の職員会議にて職員に配布し、周知を図っている。また、月1回の運営会議にて振り返り、主任が各部署に実施を促すよう取り組んでいる。平成25年度は小集団での支援や感染症対策、第三者評価受審など具体的な内容が記載されており、分かりやすい。小規模化や感染症対策については法人の学会で研究発表も視野に入れている。平成28年度施設の建て替え予定や児童家</p>	

庭支援センターの設置も含めた中、長期計画も策定されている。施設の建て替えという大きな変化に対して幹部だけで話し合うのではなく、職員1人ひとりが意見や提案を言える機会をできるだけ多く設けて頂きたい。そうした積み重ねがチームワークの強化や子どもにとって快適な環境づくりに繋がると思われる。

(3) 施設長の責任とリーダーシップ	第三者評価結果
① 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して明らかにし、専門性に裏打ちされた信念と組織内での信頼をもとにリーダーシップを発揮している。	a・b・c
② 施設長自ら、遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行い、組織全体をリードしている。	a・b・c
③ 施設長は、養育・支援の質の向上に意欲を持ち、組織としての取組に十分な指導力を発揮している。	a・b・c
④ 施設長は、経営や業務の効率化と改善に向けた取組に十分な指導力を発揮している。	a・b・c
(4) 経営状況の把握	
① 施設運営をとりまく環境を的確に把握するための取組を行っている。	a・b・c
② 運営状況を分析して課題を発見するとともに、改善に向けた取組を行っている。	a・b・c
③ 外部監査（外部の専門家による監査）を実施し、その結果に基づいた運営改善が実施されている。	a・b・c
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>施設長となって1年目であり、会議等でできるだけ職員からの話を聞き、現場の状況を把握し、施設長としての立場と責任の自覚を深めている。職員が大きな財産だと考え、専門職や現場の職員と協働し、支援に努めている。乳児院全体の動向を踏まえた事業計画の作成や家庭復帰の支援、児童相談所以外の関係機関とのネットワーク作りなど思案している。</p> <p>経営状況について3年に1回、公認会計士の指導を受けていたが、平成25年度より毎年指導を受けるよう改善している。また、利用人数の減少など施設をとりまく環境を分析し、施設の縮小化など対策を検討している。</p>	

(5) 人事管理の体制整備	第三者評価結果
① 施設が目標とする養育・支援の質を確保するため、必要な人材や人員体制に関する具体的なプランが確立しており、それに基づいた人事管理が実施されている。	a・b・c
② 客観的な基準に基づき、定期的な人事考課が行われている。	a・b・c
③ 職員の就業状況や意向を定期的に把握し、必要があれば改善に取り組む仕組みが構築されている。	a・b・c
④ 職員処遇の充実を図るため、福利厚生や健康を維持するための取組を積極的に行っている。	a・b・c
(6) 実習生の受入れ	
① 実習生の受入れと育成について、基本的な姿勢を明確にした体制を整備し、効果的なプログラムを用意する等積極的な取組をしている。	a・b・c
(特に評価が高い点、改善が求められる点)	

正規職員は法人で試験を行い、採用しているため、法人内の事業所間で人事異動がある。臨時職員については各事業所で採用し、人事異動がないため、乳児院で仕事をしたいという職員は臨時職員で勤務している場合も多い。人事異動については職員の希望を聞き、法人の人事考課で決定している。個人面談や契約更新時の面談を行い、個々の意見を聞く機会を設けている。

実習担当者により年度始めに計画を作成し、実習生を受け入れている。保育士や介護体験、臨床心理士など様々な分野から実習の要請がある。プログラムについては各大学と打ち合わせを行い、内容を決めている。施設独自のものとして厨房で離乳食作りなどを取り入れている。

(7) 標準的な実施方法の確立	第三者評価結果
① 養育・支援について標準的な実施方法を文書化し、職員が共通の認識を持って行っている。	a・b・c
② 標準的な実施方法について、定期的に検証し、必要な見直しを組織的に実施できるよう仕組みを定め、検証・見直しを行っている。	a・b・c
(8) 評価と改善の取組	
① 施設運営や養育・支援の内容について、自己評価、第三者評価等、定期的に評価を行う体制を整備し、機能させている。	a・b・c
② 評価の結果を分析し、施設として取り組むべき課題を明確にし、改善策や改善実施計画を立て実施している。	a・b・c
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>各種養育マニュアルを作成し、職員に配布している。見直しについては委員会にて話し合い、その都度差し替えている。</p> <p>今回の自己評価は各部署の責任者に自分の分野を自分でチェックしてもらった。前年度は全員が全体のチェックを行った。自己評価のより効果的な方法について試行錯誤し、真摯に向き合っていると感じた。</p>	